

Exhibition MARCESTEL



マークエステル展

日本の精神文化に魅せられて

2015 2/4(水)・5(木)・6(金)・8(日)

開館時間 10:00 ~ 19:00

横浜市大倉山記念会館ギャラリー

2/7は、「第3回大倉山国際学生フォーラム横浜2015」開催にともない、お休みとなります。



掲載作品
「神々の神聖な祭りによる天照大御神の復活、そして世界は甦った」
伊勢神宮奉納作品（部分）



表掲載作品の全体図 手彩入ジクレー版画による4曲屏風 140×320

日本の精神文化に魅せられて

かつて日本文化に魅せられた外国人、フェノロサや小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）のようにマークエステルもまた、初来日で日本に魅了されました。1970年の大阪万博に訪れた際、京都の清水寺で水墨画の美しさに心酔。人知を超えて生まれる神秘的な滲みの中に、自然や他者を受け入れ共生する日本人の哲学と精神性を感じたのです。以来、外交官としての道を捨て画家へと転身。油彩で滲みを作るという独自の画法を確立し、現在、世界的に高い評価を得ています。

彼の創作の源は、日本に対する深い愛情、そして、神に対する真摯な崇敬の念でありましょう。彼が絵を描く時、そこには作為も計算もなく、ただ幼子のように天に身を委ね自由に色と戯れるのです。その純粹さが見る者の心を解放し、惹きつけて止みません。今年72歳を迎えるマークエステル。創作のイメージネーションは尽きることなく、益々精力的に制作に励み、ライフワークである神社への作品奉納は、全国132社に及びます。この度、「古事記」をはじめとする日本の精神文化を研究し伝承される大倉精神文化研究所の拠点である当館において、作品展示の機会が与えられましたことを作家本人共々関係者の皆様に心より感謝いたします。



因幡の白兔に大國主命が助言する 手彩入ジクレー版画 38×46.2

MARCESTEL

マークエステル・スキャルシャフィキ



伊邪那岐命の禊と三貴子の誕生 手彩入ジクレー版画 38×45.3
(高千穂神社奉納作品)



愛を広げる花束 手彩入ジクレー版画 38×50.8

- 1943 パリ生まれ。家族で南仏エズに移住。フランスホテル協会会長の父が経営するカップエステルホテルで少年期を過ごす。パリ大学にて経済学学士号、国立東洋語学校で露語と中国語の学士号を取得。パリ・ボザール美術学校で建築学、パリ・カモンド美術館で装飾美術を学ぶ。
- 1968 ラオス・フランス大使館勤務。翌年、モーリス・シューマン外務大臣の秘書となる。近くに住んでいたマルク・シャガールや、グレタ・ガルボ、チャーリー・チャップリン、ビートルズ、ケネディー家、ボンビドゥー家、デヴィッド・ロックフェラー、モナコのグレース王妃等と交流を深める。
- 1970 大阪万博に訪れ、京都清水寺で水墨画の滲みの美しさに感動し、画家へと転身。
- 1974 ガラス工芸品、陶器、漆、ブロンズ、シルク生地によるセリグラフィ等の制作を開始し、ピエール・カルダン、ピエール・バルマン等が生地をオートクチュールで使用。ヴォーグ誌で特集される。
- 1987 ホームレスの子供達の為の学校「アベル」を創設。その後、マークエステル教育財団を設立し4つの学校を運営。(トーゴ2カ所、ブルキナファソ、モザンビーク)
- 1989 盛田会長の好意で銀座ソニービルにて個展。東急文化村オープンニング記念企画で個展開催。
- 2006 「日本神話 by MARCESTEL」を七ヶ国語版で出版。翌年神道文化会より文化奨励賞を授与される。
- 2011 作品を舞台芸術化したコンサートを高松で開催。翌年、松山で開催。
- 2013 BS-TBSで1時間番組「フランス人画家 マークエステルが巡る 日本神話の旅」が放映される。出雲大社「平成の大遷宮」奉祝奉納公演に作品映像提供。
- 2014 下村文部科学大臣より「文化関係者文部科学大臣表彰」を受賞
現在、全国132社の神社へ作品奉納。 URL <http://www.marcestel.jp>

作家来場

来場日については下記にお問合せください
株式会社H & T TEL/ 03-6407-4343
E-mail/ info@h-a-t.jp

会場
横浜市大倉山記念館
横浜市港北区大倉山二丁目10-1
TEL.045-544-1881 <http://o-kurayama.com/>

東急東横線「大倉山駅」下車 徒歩7分
大倉山記念館内には一般駐車場はございません

